



O-5 重度認知症の方へ意味のある作業を提供することで起きた変化について ～プール活動レベルを使用して～

○河口 皓一¹⁾, 山根 七恵¹⁾

1) 医療福祉センター倉吉病院

Keywords: プール活動レベル、意味のある作業、認知症高齢者

【はじめに】

認知症の方は自ら作業や環境を調整し活動に取り組むことが困難となり、自ら意味のある作業に取り組むことができない状態がある。認知症の方が自分らしい作業への取り組みや意味のある作業を行うためには作業療法士（以下、OT）がその方の背景を理解している必要がある。本報告では重度認知症の方にプール活動レベル（以下、PAL）を使用し、意味のある作業を提供することでどのような影響を与えるか検討し報告する。なお、報告するにあたり家族の同意を得ている。

【事例紹介】

アルツハイマー型認知症を呈した 70 代男性（以下、A 氏）。週 6 日デイサービスを利用。X 年 Y-1 月家族に対して暴力的となり、息子と喧嘩になり本人が怪我をした。家族より入院希望があり X 年 Y 月 Z 日当院医療保護入院となる。《本人希望》仕事せんといいけん。《家族希望》落ち着いて穏やかに過ごしてほしい。歩行状態維持。《職業》農業《性格》大人しい《趣味》体を動かすこと《既往》大腿骨骨折、筋痛症《退院先希望》グループホーム

【経過と結果】

入院～1 ヶ月：入院時評価、HDS-R 5 点、BI 55 点、NPI 重症度 23 点、介護負担度 28 点。日中は落ち着きなく病棟内を歩いている。また、幻視に左右された行動が多くみられる。声をかけると仕事に関する訴えが聞かれるが、簡単な会話であればできる。他者との交流はほとんどないが、時折職場の職員かのように話しかけている。また、病棟内に置いてある机や椅子を持ち運び、ひっくり返すなどの問題行動がある。入浴やオムツ交換時には拒否や易怒性が強い。作業では折り紙や紙切り、塗り絵などを提供し、塗り絵が一番集中して取り組むことができた。作業中にも仕事に関する発言は継続して聞かれる。2～3 ヶ月：妻より「施設退院後にできる作業を見つけてほしい」と希望を聞き、集中して取り組むことのできる塗り絵と歩行練習を主に介入する。幻視に左右された言動は軽減しているが、仕事に関する訴えは継続して聞かれる。問題行動も変わりなく継続して見られる。中間評価、HDS-R 2 点、BI 55 点、NPI 重症度 17 点、介護負担度 19 点。

4 ヶ月以降：PAL 使用し A 氏の活動レベルは「感覚活動レベル」であり、意味のある作業が農作業とわかった。草抜きや水やり、収穫を行う。1 工程ずつに分け身体的な接触を通して道具や材料に気づくよう支援する。「こういう仕事は任せてくれていい」「せないけん」などの発言が聞かれる。農作業を取り組み始めてから仕事に関する不安の訴えは減少し、日中の問題行動の回数も減少した。最終評価、HDS-R 4 点、BI 55 点、NPI 重症度 14 点、介護負担度 15 点。

【考察】

PAL を使用し A 氏の言動や生活歴を評価することで、農作業は自身の生活の中で重要な作業、役割であったことを確認することができた。また、活動レベルを理解することで A 氏に合わせた支援方法を行うことができた。これらのことから、失敗体験がほとんどなく農作業を遂行でき、達成感や満足感を得ることで仕事に関する不安の訴えが減少し、「任せてくれていい」などの陽的な発言が聞かれたのではないかと考える。今回の結果では NPI の点数に大きな変化が見られた。青柳らは「対象者にとって意味のある作業を用い、活動に参加する役割の獲得が BPSD の改善に有用である」と報告している。また増子らの研究では PAL 使用後 2 週間の介入により行動症状には好影響を与えたとの結果が出ている。本症例も PAL を使用し農作業を提供してから 1 ヶ月程度と期間は短いながら NPI の減少が見られている。今後も意味のある作業を提供し、活動レベルに合った支援方法を行っていくことで更に BPSD の低下が見込めると考える。今回農作業に焦点を当て介入を行なった。今回の結果を他職種と情報を共有することで日常生活の中でも A 氏らしさや個性を活かした生活へとつなげていくことができると考える。